

2022年3月期決算の概況



SBIインシュアランスグループ株式会社
2022年5月12日

連結業績	P. 3
セグメントごとの経営成績	P. 8
事業トピックス	P. 22
参考資料	P. 49

(免責事項)

- 本資料に掲載されている事項は、SBIインシュアランスグループ株式会社（以下「当社」）による当社グループの業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、日本国内外を問わず、いかなる投資勧誘またはそれに類する行為を目的としたものではありません。また、当社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分について保証するものではありません。なお、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

(本資料中の表示)

- 資料内の社名等の表示に、次の略称を使用している箇所があります。

SBI損害保険株式会社・・・SBI損保

SBI生命保険株式会社・・・SBI生命

SBIいきいき少額短期保険株式会社・・・SBIいきいき少短

SBI日本少額短期保険株式会社・・・SBI日本少短

SBIリスタ少額短期保険株式会社・・・SBIリスタ少短

SBIプリズム少額短期保険株式会社・・・SBIプリズム少短

常口セーフティ少額短期保険株式会社・・・常口セーフティ少短

連 結 業 績



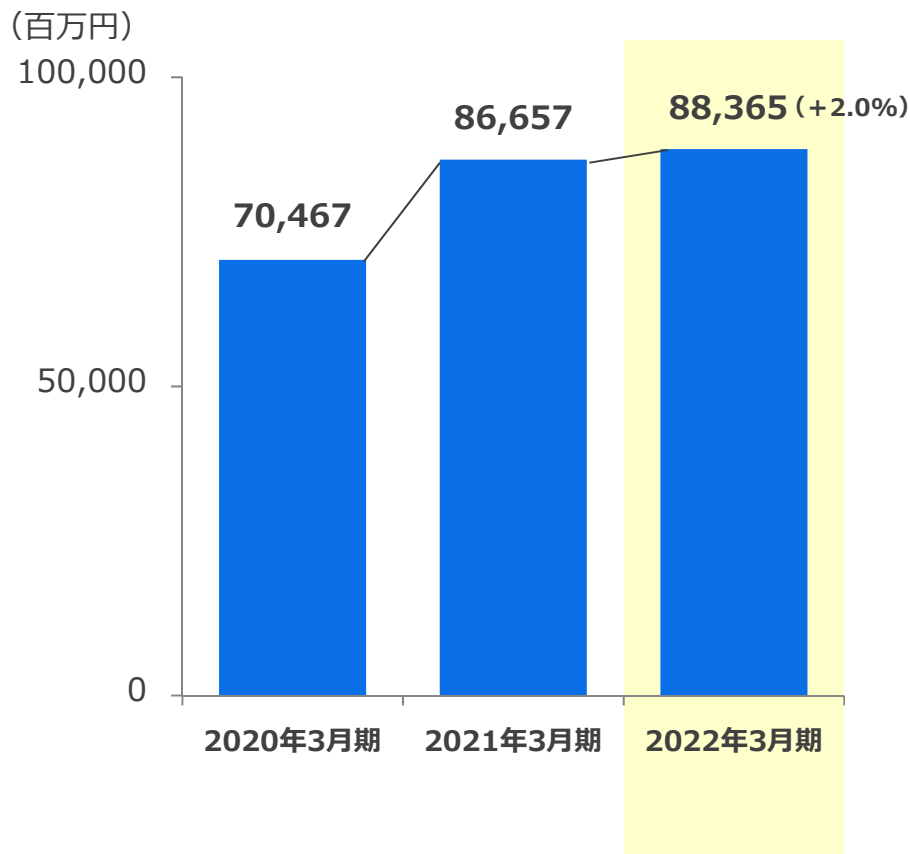
2022年3月期 連結業績

(単位：百万円)

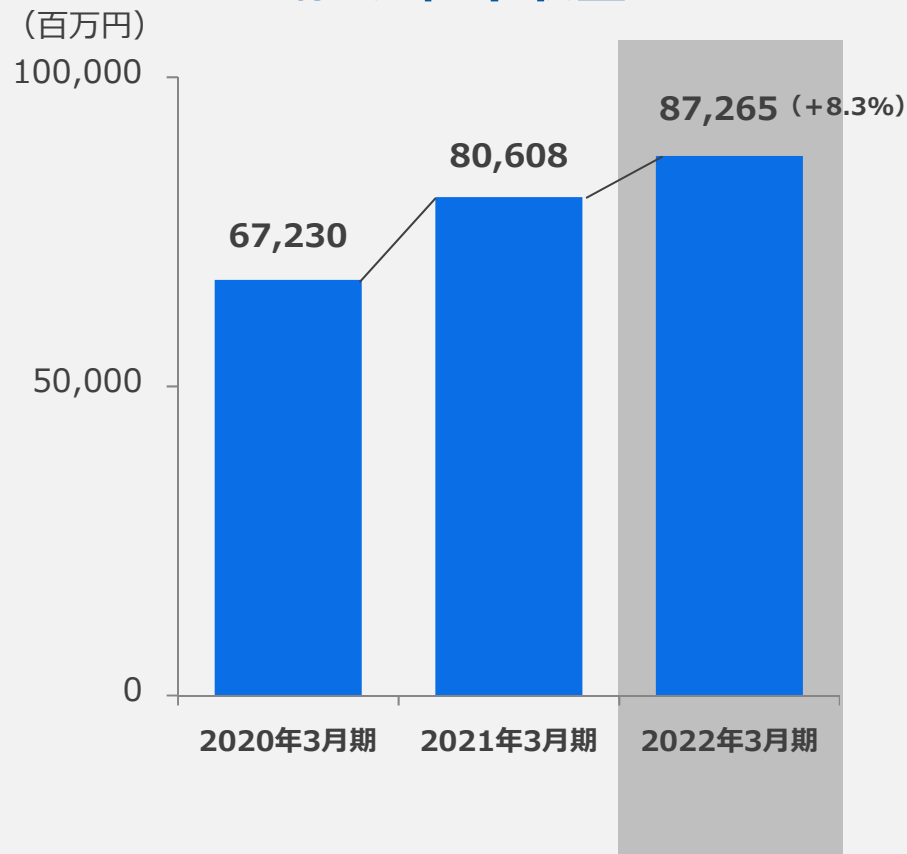
	2021年3月期 (2020年4月～2021年3月)	2022年3月期 (2021年4月～2022年3月)	対前期 増減率
経常収益	86,657	過去最高 88,365	2.0%
経常利益	3,852	過去最高 5,925	53.8%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	763	過去最高 891	16.8%

- ◆ すべての事業で保有契約件数が堅調に増加したことなどにより増収増益。
経常収益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の3項目すべてが過去最高金額を更新
- ◆ 経常収益は 2.0%の増加（会社の利益には影響を与えない「特別勘定」に係る収益を除いて前期と比較すると 8.3%の増加、次ページで詳述）、経常利益は 53.8%の増加、親会社株主に帰属する当期純利益は 16.8%の増加

経常収益



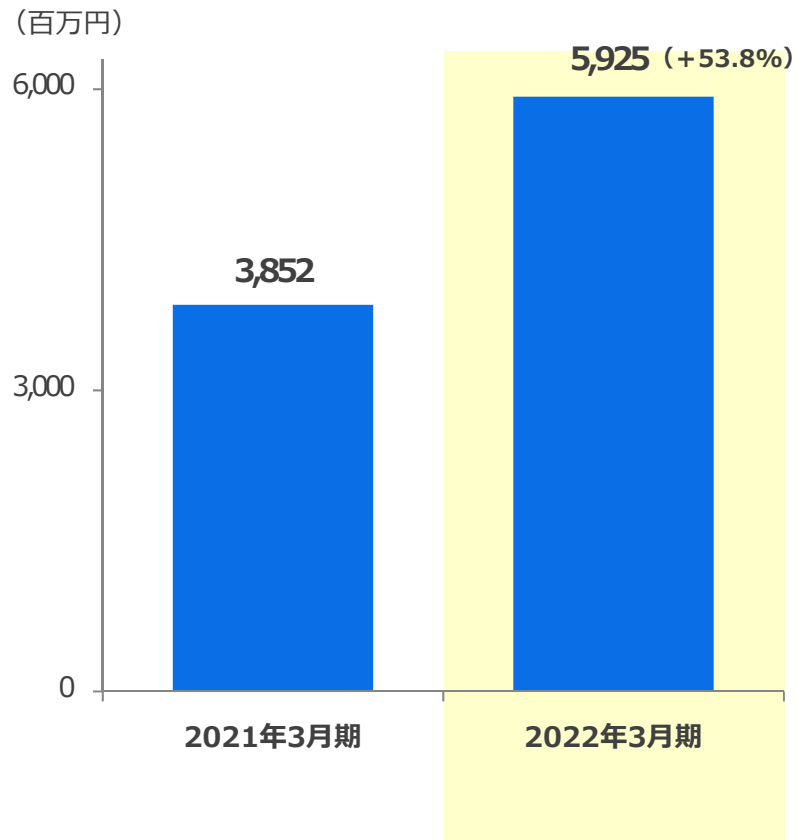
＜参考＞「特別勘定」に係る収益を除いた経常収益



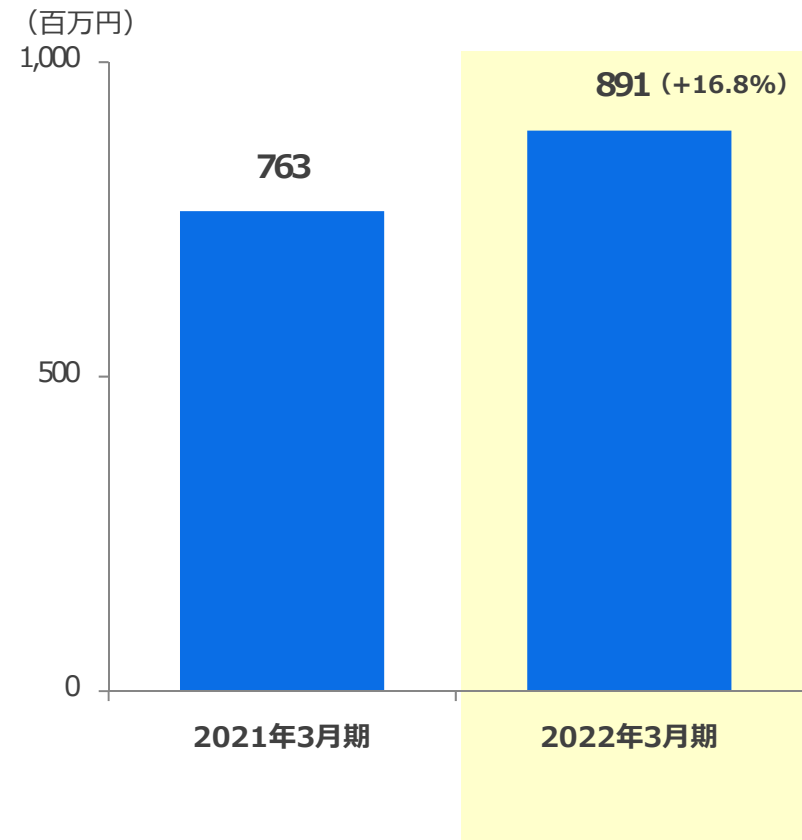
- ◆ 経常収益は、会社の利益には影響を与えない「特別勘定」※に係る収益を含んでおり、前期は特にその金額が大きいため、「特別勘定」に係る収益を除いて経常収益を比較すると前期比8.3%の増加（右グラフ）

※変額保険や変額個人年金保険は運用実績を直接契約者に還元するため、契約者に帰属する特別勘定として資産・負債及び損益を区分経理します。特別勘定に係る収益と費用は、それぞれ同額を計上するため利益に影響を与えないものの、損益計算書の経常収益及び経常費用に含めて表示します。

経常利益



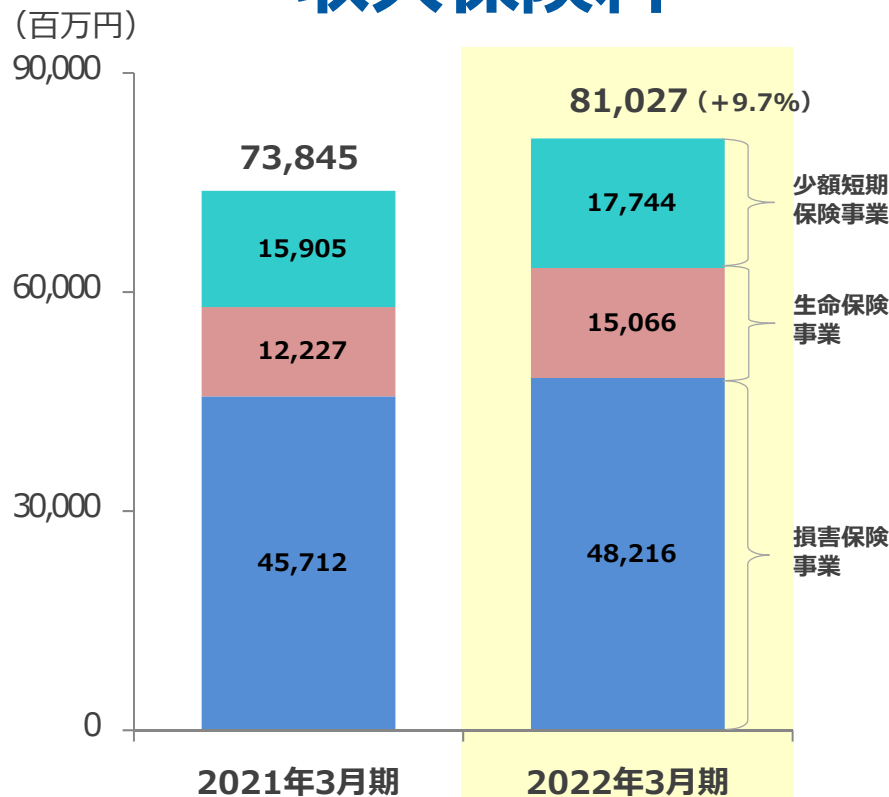
親会社株主に 帰属する 当期純利益



- ◆ 経常利益は、前期比 53.8%の増加
- ◆ 親会社株主に帰属する当期純利益は、固定資産等処分損などの特別損失※が増加したものの、前期比 16.8%の増加

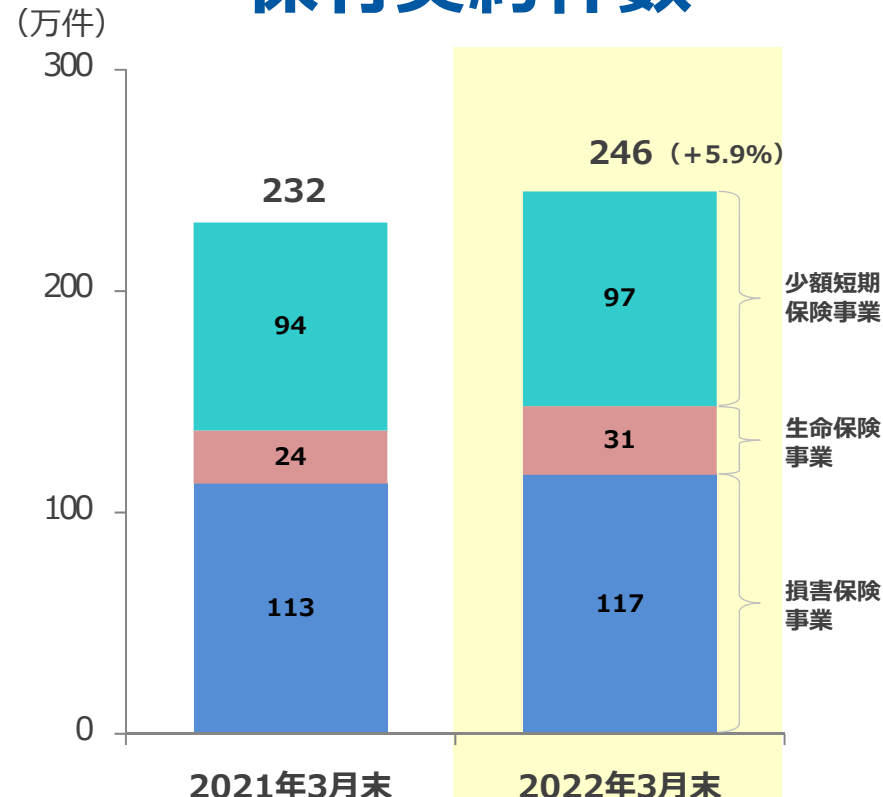
※2022年3月期には、損害保険事業における一部業務システムの入れ替えに伴う固定資産等処分損などを特別損失として計上しています。

収入保険料 [※]



※損害保険事業は元受正味保険料の金額を、生命保険事業および少額短期保険事業は保険料収入の金額を合計して掲載しています。

保有契約件数 [※]



※生命保険事業の件数には、SBI生命の団体信用生命保険の被保険者数を含めています。

- ◆ 引き続きすべての事業で収入保険料と保有契約件数が増加
- ◆ 会社全体の収入保険料は前期比 9.7%の増加、同保有契約件数は前期末比 5.9%の増加となるなど引き続き好調に推移



セグメントごとの経営成績

経常収益（報告セグメント別）

（単位：百万円）

	2021年3月期 (2020年4月～2021年3月)		2022年3月期 (2021年4月～2022年3月)		対前期 増減率
	金額	構成比	金額	構成比	
損害保険事業	32,737	37.7%	過去最高 33,655	38.0%	2.8%
生命保険事業	27,013	31.1%	25,258	28.5%	△6.5% (※)
少額短期保険事業	27,151	31.2%	過去最高 29,695	33.5%	9.4%

※ 前期の生命保険事業の経常収益は、会社の利益には影響を与えない「特別勘定」に係る経常収益の金額が特に大きくなっています。その金額を除いて比較すると 前期比 15.2%の増加となります。
(生命保険事業のページで詳述)

セグメント利益（経常利益ベース）

（単位：百万円）

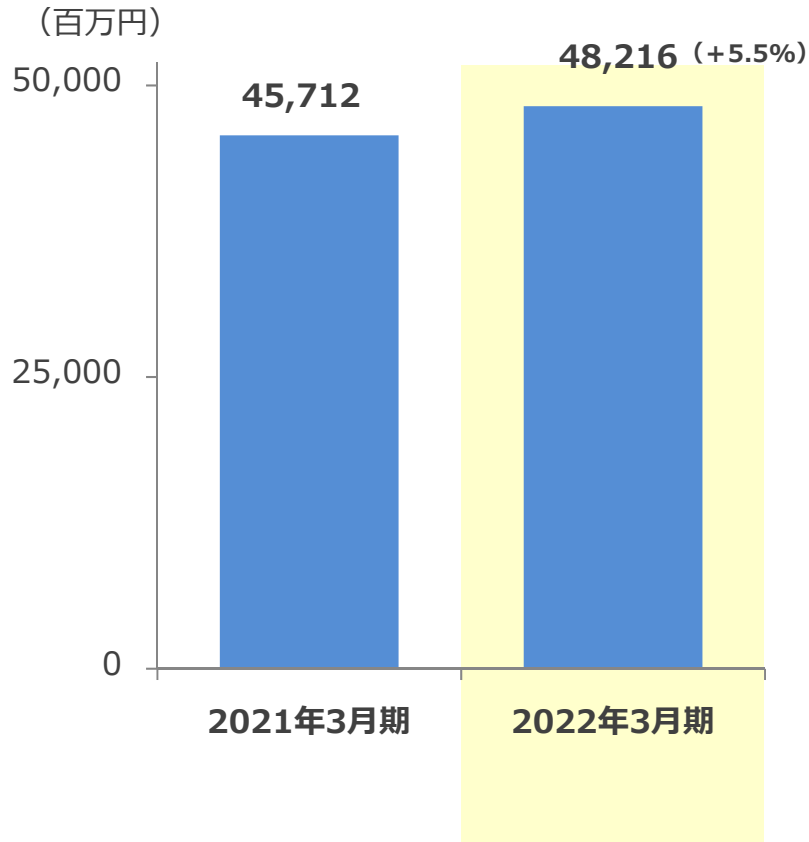
	2021年3月期 (2020年4月～2021年3月)		2022年3月期 (2021年4月～2022年4月)		対前期 増減率
	金額	構成比	金額	構成比	
損害保険事業	779	17.5%	過去最高 1,536	23.7%	97.0%
生命保険事業	3,140	70.7%	過去最高 4,704	72.4%	49.8%
少額短期保険事業	523	11.8%	256	3.9%	△51.0% (※)

※ 少額短期保険事業のセグメント利益は、ペット保険における保険金支払いが前年度に比べ増加したことなどにより低下いたしました。同セグメントの利益構成比は小さく、連結ベースの経常利益への影響は大きくありませんが、同セグメント単独の前期比増減率としては大幅な減少となりました。

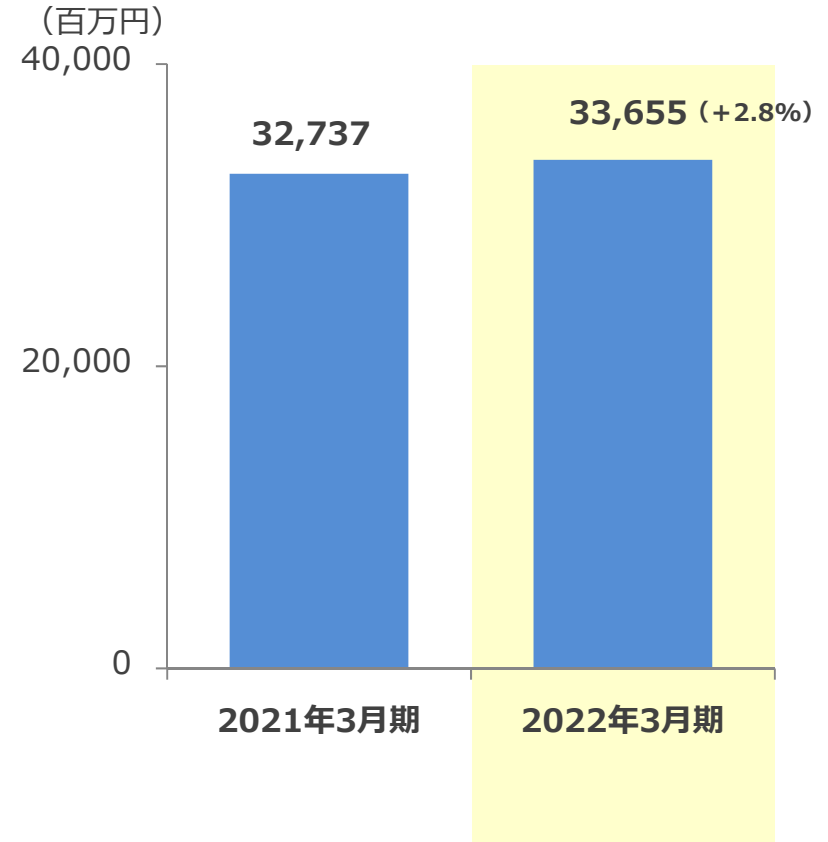
SBI GROUP **SBI損保**

- ◆ 元受正味保険料は、前期比 5.5%の増加
- ◆ 経常収益は、前期比 2.8%の増加

元受正味保険料



経常収益

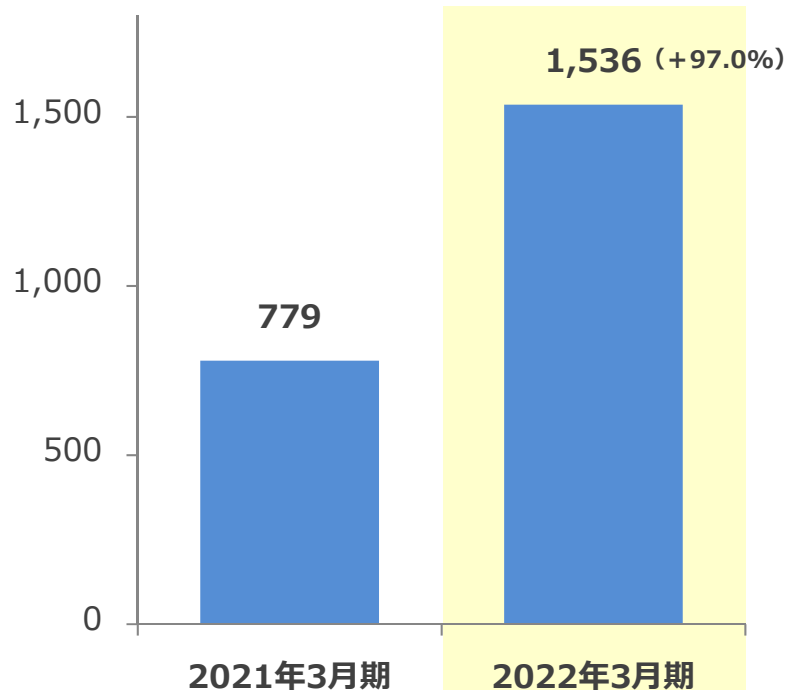




◆ セグメント利益は、保険金の支払いが増加したものの、増収効果に加えて、責任準備金繰入額が減少※したことなどにより、前期比97.0%の大幅な増加

セグメント利益

(百万円)



※ 前期は初年度収支残をもとに普通責任準備金を大幅に積み立てましたが、当期は普通責任準備金の戻し入れとなり経常収益の責任準備金戻入額に計上しております。



- ◆ コンバインド・レシオは、前期比で小幅の上昇
- ◆ ソルベンシー・マージン比率は、主に保有契約の増加に伴う保有リスク量の増加を要因に小幅の低下

コンバインド・レシオ (SBI損保単体)

(単位：%)

	2021年3月期 (2020年4月~2021年3月)	2022年3月期 (2021年4月~2022年3月)
正味損害率	68.3%	68.7%
正味事業費率	18.3%	20.0%
コンバインド・レシオ	86.6%	88.7%

その他の経営指標 (SBI損保単体)

(単位：百万円、%)

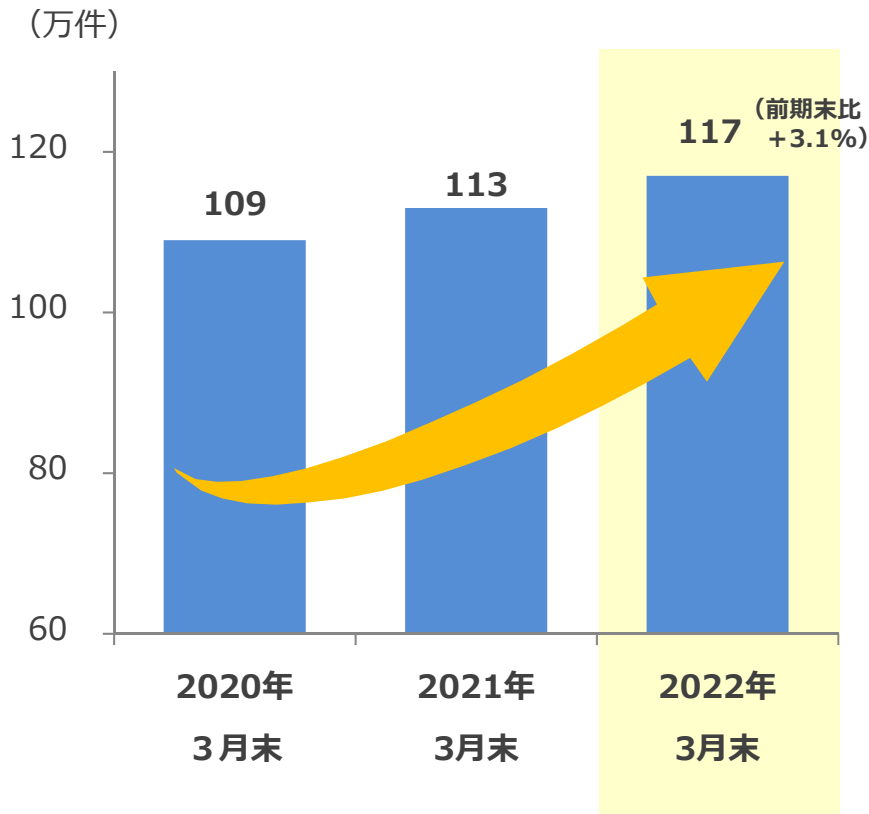
	2021年3月末	2022年3月末
総資産	58,768	56,113
単体ソルベンシー・マージン比率	545.5%	527.5% (※)

※ 掲載数値は速報値です。

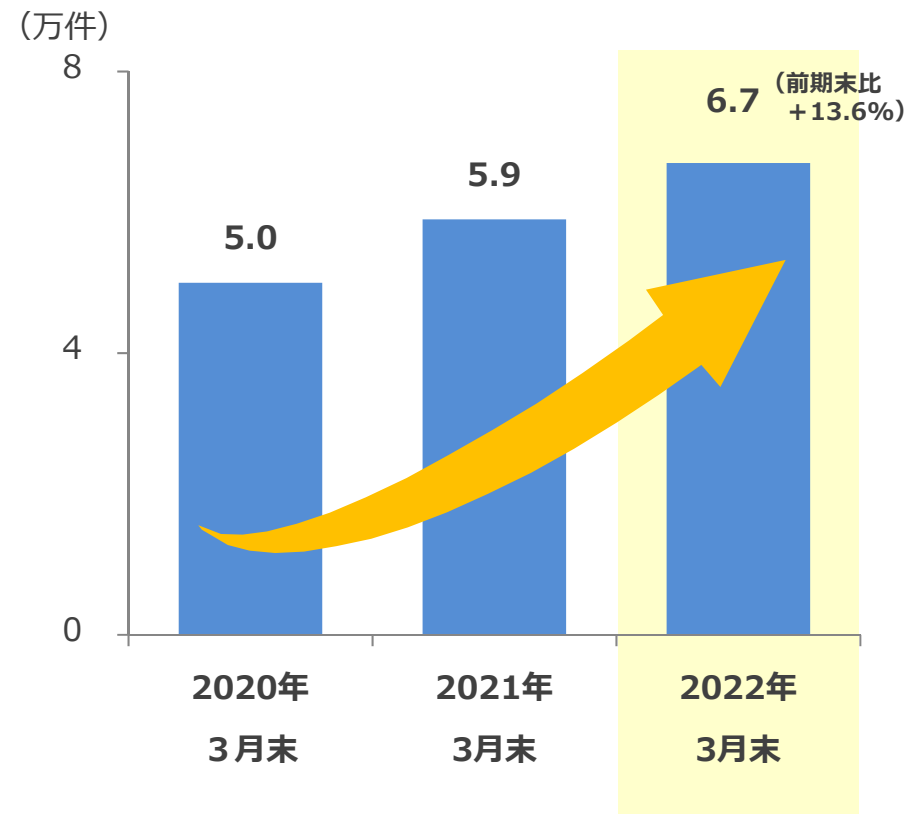
SBI GROUP **SBI損保**

- ◆ 保有契約件数は堅調に増加
- ◆ 実額補償型のがん保険は、地域金融機関や事業法人との提携に伴う販路拡大により、前期末比 13.6%の増加

保有契約件数（全種目）



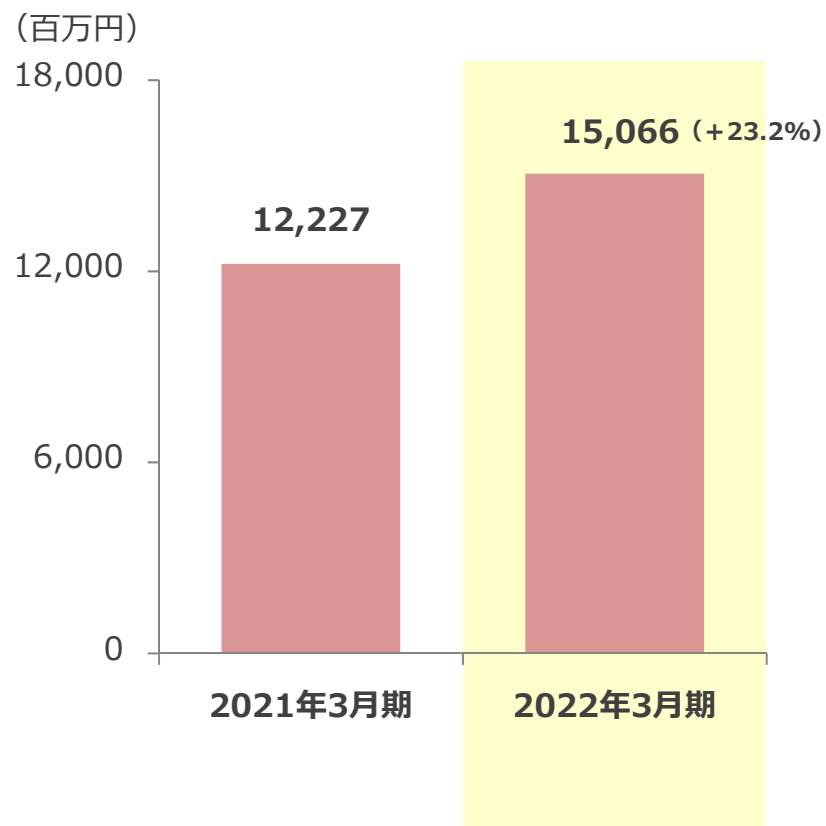
保有契約件数（がん保険）



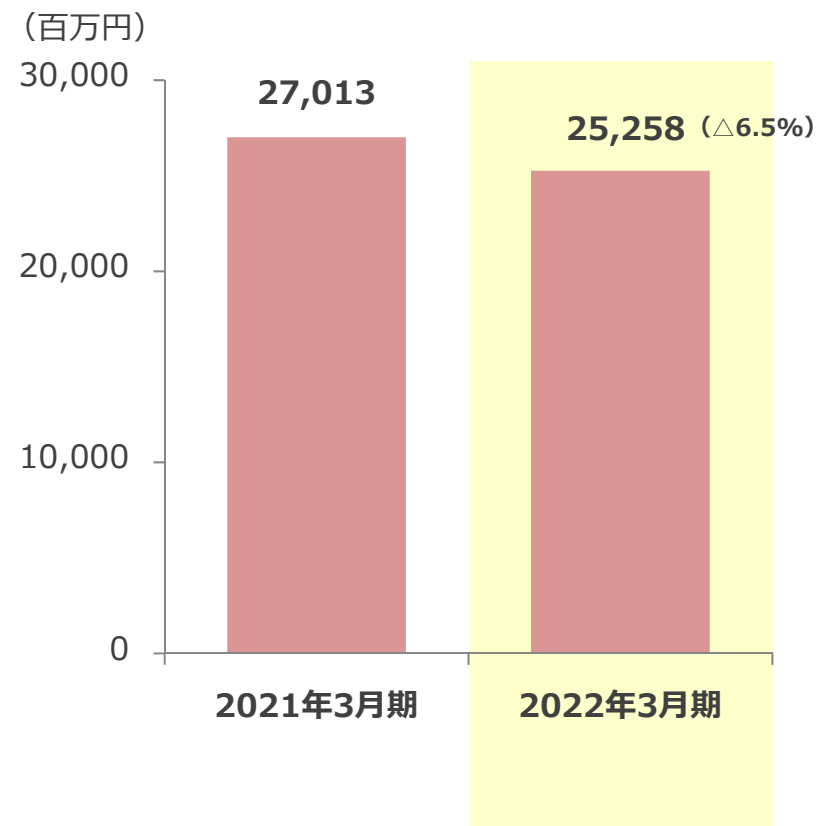


- ◆ 団体信用生命保険（以下「団信」）を中心に好調が持続
- ◆ 経常収益は「特別勘定」の影響があるため、次ページでその影響を控除して詳述

保険料収入



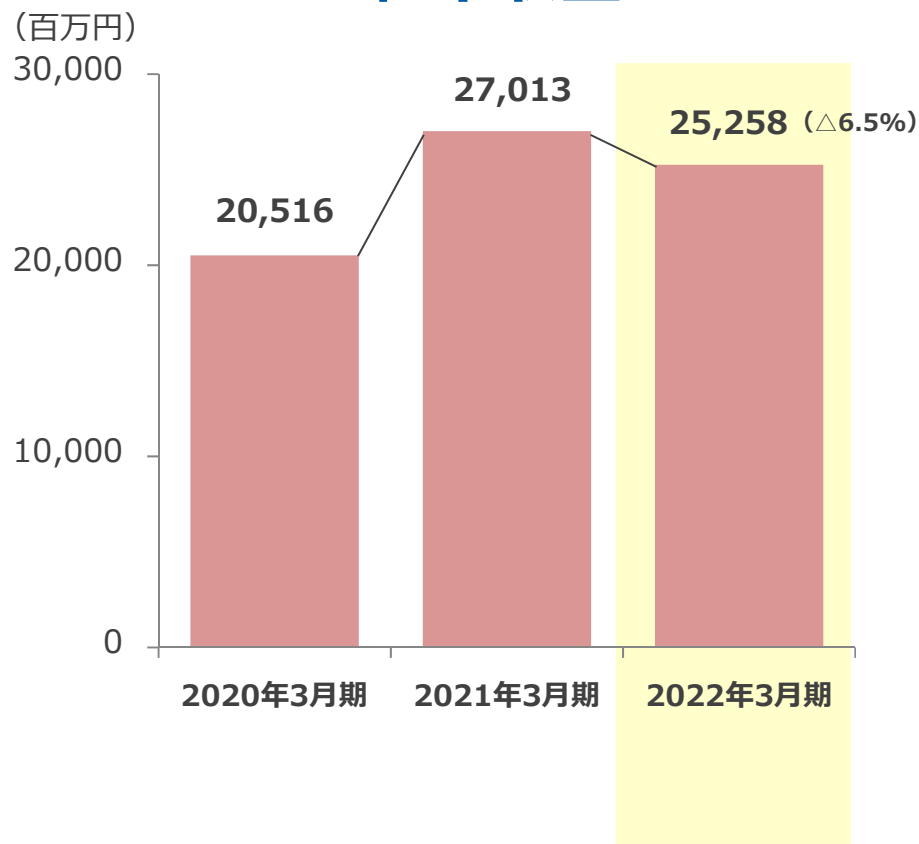
経常収益



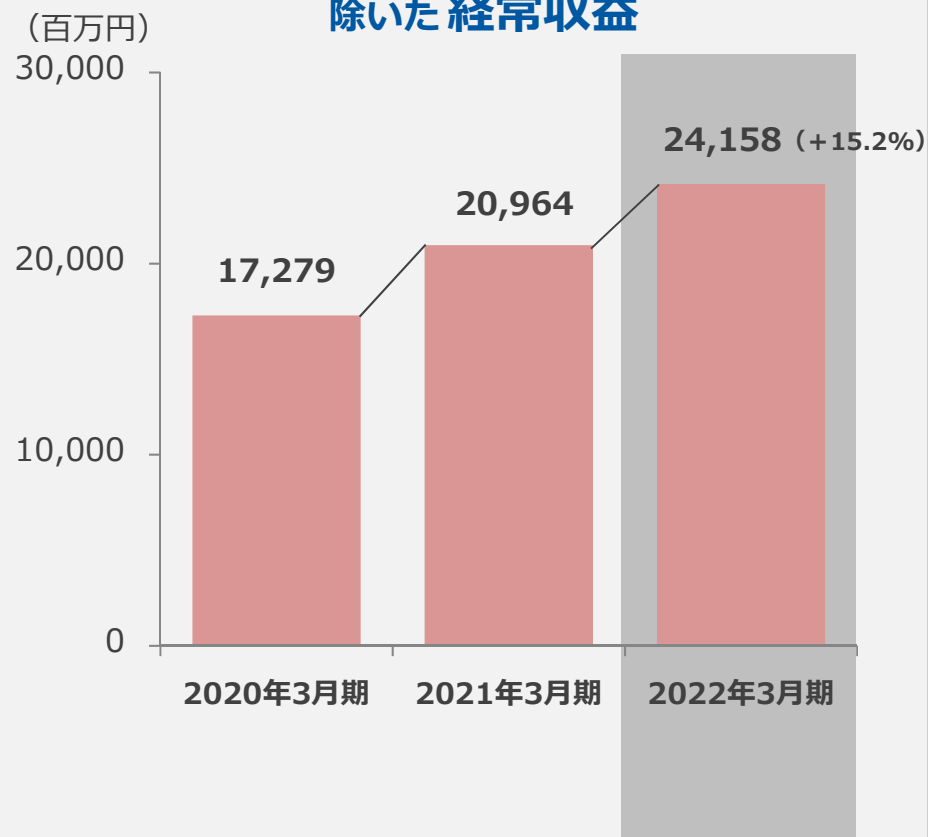


- ◆ 経常収益は、会社の利益には影響を与えない「特別勘定」に係る収益を含んでいるため、その金額を除いて経常収益を比較すると前期比 15.2%の増加（右グラフ）

経常収益



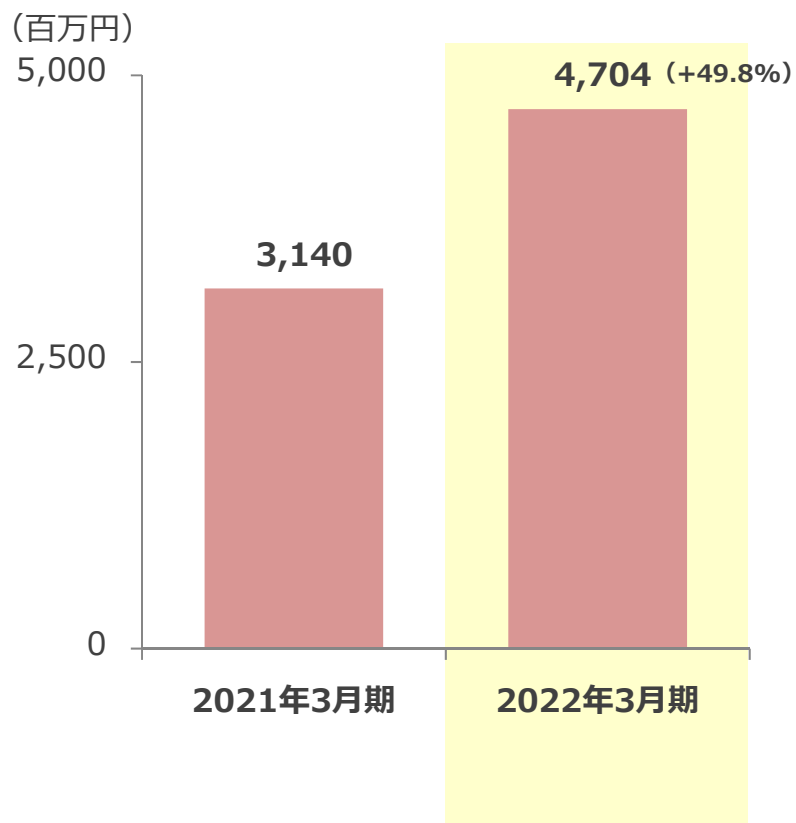
<参考> 「特別勘定」に係る収益を除いた経常収益





- ◆ セグメント利益は、前期比 49.8%の増加
- ◆ ソルベンシー・マージン比率は、主に 保有契約の大幅な増加に伴うリスク量の増加、市況の悪化等に伴う有価証券含み益の減少などを要因に低下

セグメント利益



その他の指標

(SBI 生命単体)

(単位：百万円、%)

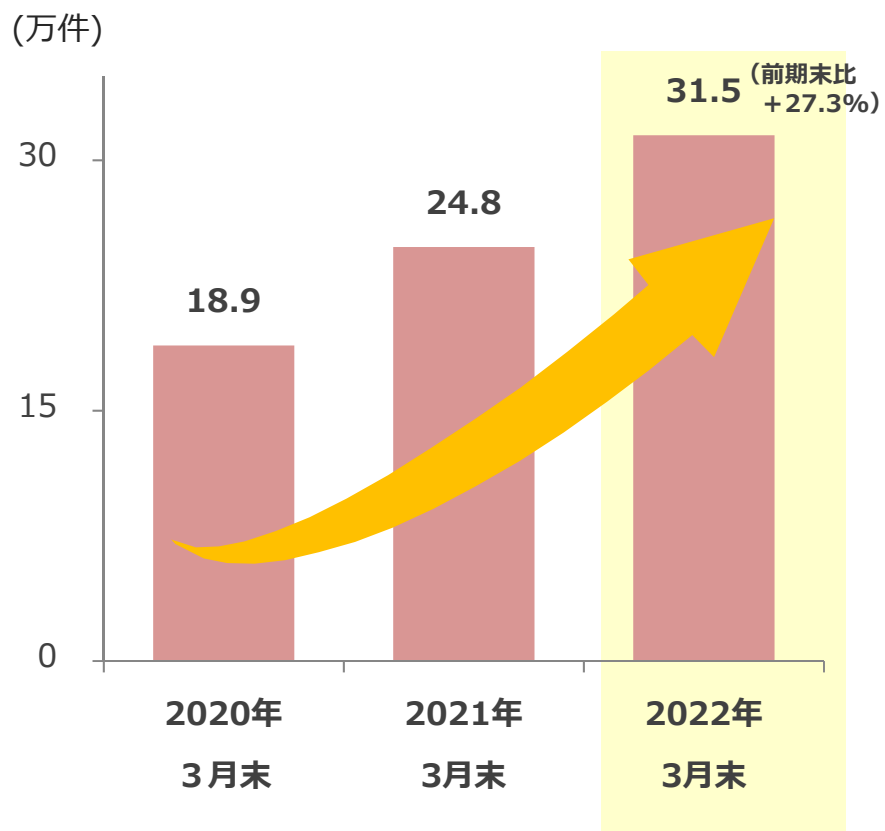
	2021年3月末	2022年3月末
総資産	124,035	123,640
単体ソルベンシー・マージン比率	898.1%	821.3% (※)

※ 掲載数値は速報値です。

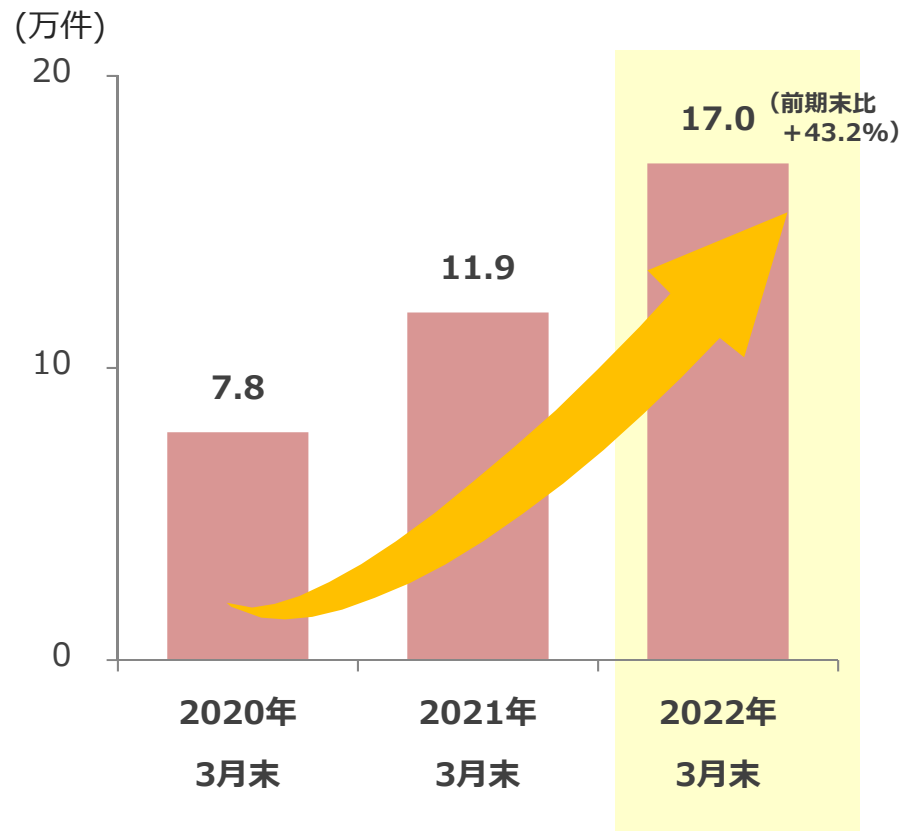


- ◆ 保有契約件数は、前期末比 27.3%の増加
- ◆ 団信は、住信SBIネット銀行の住宅ローンご利用者さま向けに加え、全国の地域金融機関さまへの団信の導入が進んだ結果、前期末比 43.2%の大幅な増加

保有契約件数（全種目）



保有契約件数（団信）

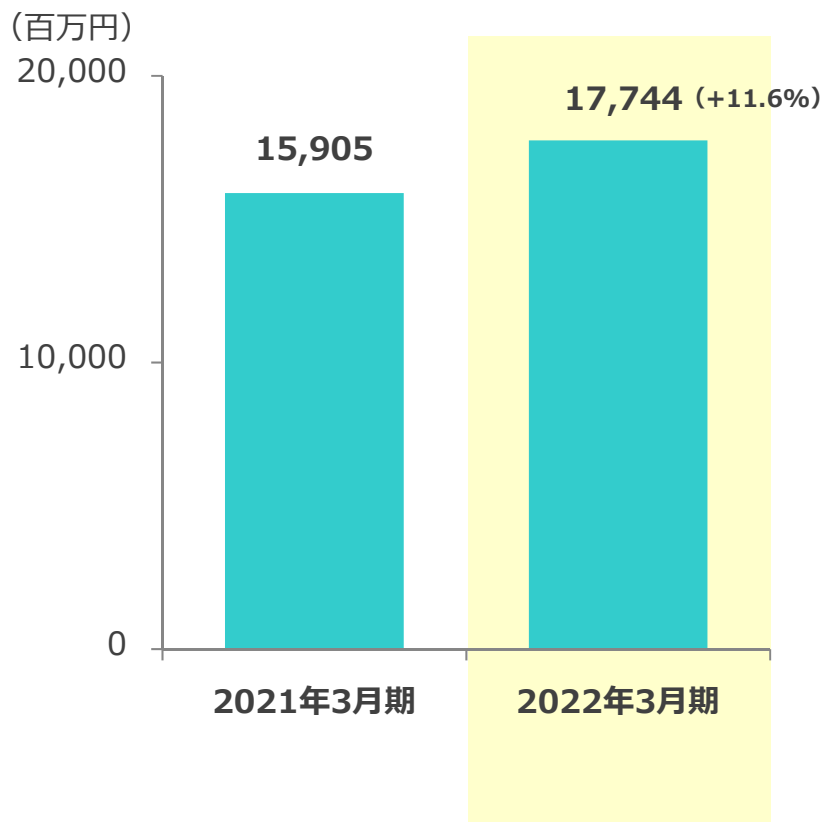


※団体信用生命保険については、被保険者数を保有契約件数として表示しています。

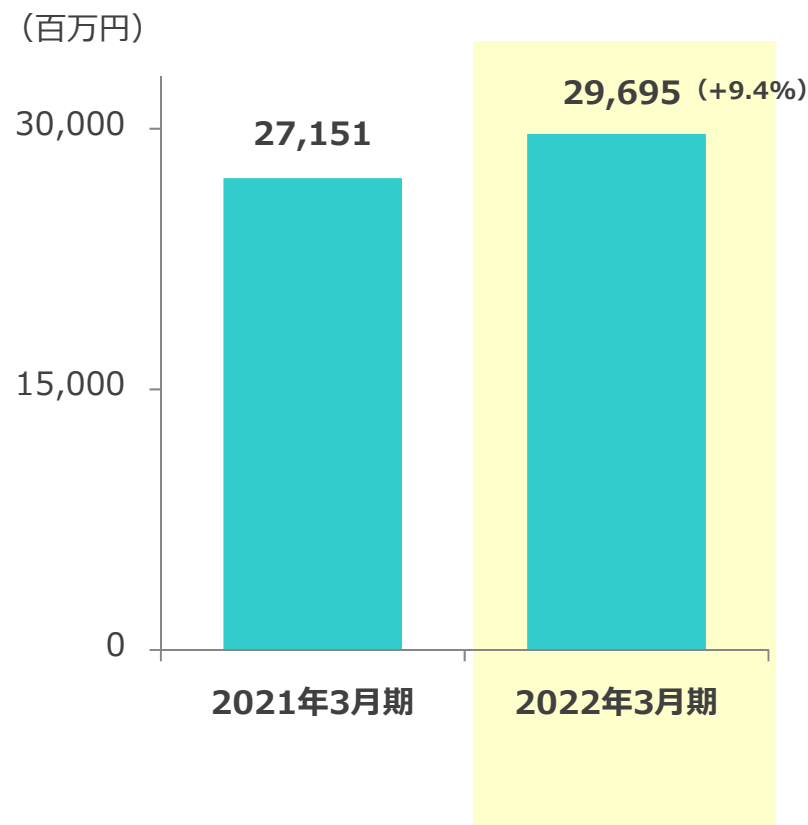


- ◆ 保険料収入は、前期比 11.6%の増加
- ◆ 経常収益は、前期比 9.4%の増加

保険料収入



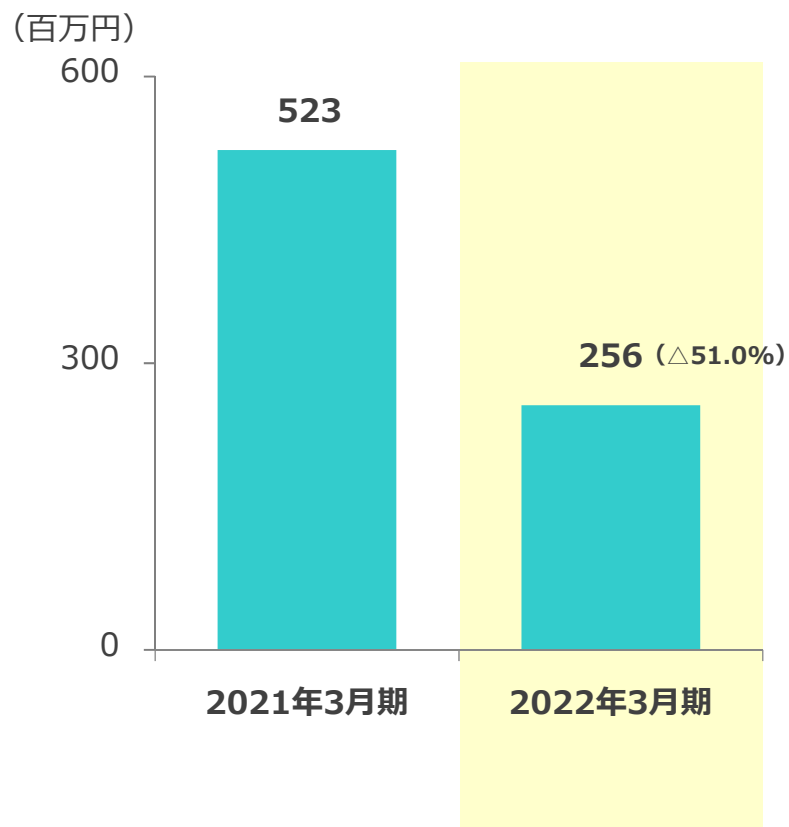
経常収益



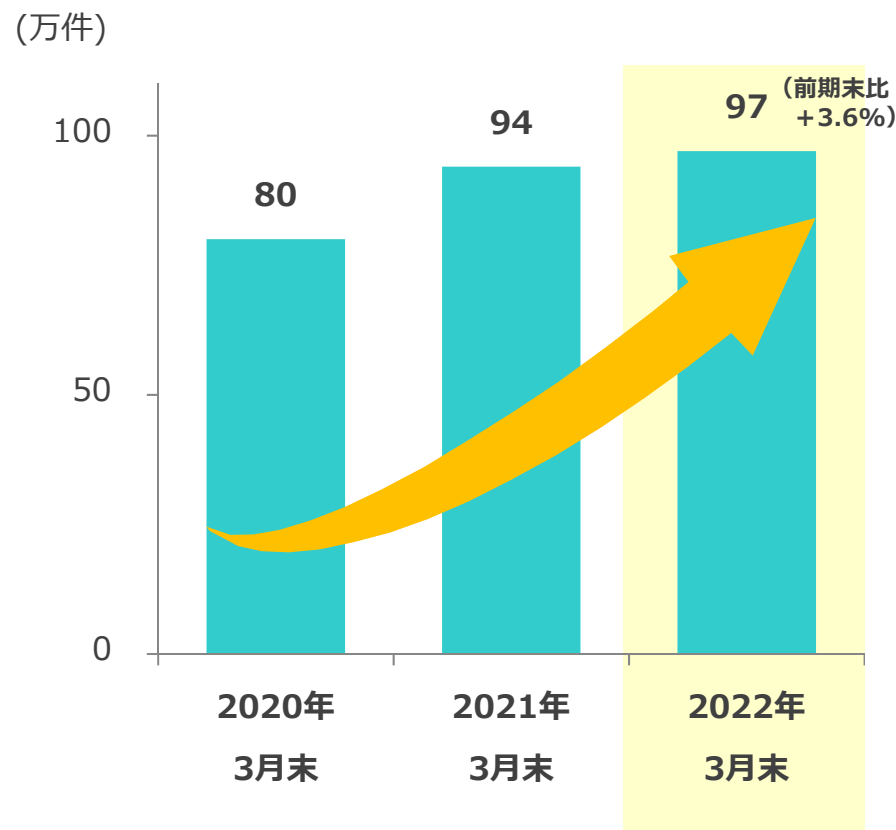


- ◆ セグメント利益は、ペット保険における保険金支払いが増加したことなどにより、前期比 51.0%の減少
- ◆ 保有契約件数は、前期末比 3.6%の増加

セグメント利益



保有契約件数



2023年3月期 連結業績予想 (2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位：百万円、%)

	2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (予想)	増減率
経常収益	86,657	88,365	93,500	5.8%
経常利益	3,852	5,925	6,000	1.3%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	763	891	950	6.5%

- ◆ 2023年3月期の連結業績は、保険金支払いの増加が見込まれるものの、すべての事業における保有契約件数の堅調な増加を見込んでおり、引き続き成長基調を維持していく見通しです。



事業トピックス

～ 飛躍的な成長に向けて～

損害保険事業

- ◆ 「新しい時代に、新しい保険を」
最先端の商品、最高水準のサービスの提供を目指す
- ◆ テクノロジーの力で新たな価値を創造。
グループシナジーで更なる飛躍へ



※損害保険事業は、SBI損害保険株式会社
(以下「SBI損保」) 1社で構成しています。



2022年 オリコン顧客満足度®調査において、
 SBI損保の自動車保険が **自動車保険 保険料 第1位**、
 SBI損保のがん保険が **定期型がん保険商品 総合1位**
 をそれぞれ獲得

◆ 自動車保険での **保険料 第1位** は **10度目**の獲得、
 定期型がん保険商品での **総合1位** は **2度目**の獲得となり、
 ともに **2年連続**での受賞

〔 2022年 オリコン顧客満足度®調査
 自動車保険 保険料 第1位 〕

〔 2022年 オリコン顧客満足度®調査
 定期型がん保険商品 総合1位 〕



※株式会社oricon ME調べ（2022年版）

・オリコン顧客満足度®調査 自動車保険ランキングは、自動車保険について、過去4年以内に自分が運転していて自動車保険を適用したことがあり、かつ、自動車保険へ加入する際に選定に
 関与した18歳～79歳の男女13,793名から得た回答に基づきランキングを発表しています。
 ・オリコン顧客満足度®調査 定期型がん保険商品ランキングは、定期型がん保険について、6商品からファイナンシャルプランナー30名を対象とした調査に基づきランキングを発表しています。



S B I 損保は、HDI-Japanが主催する 2021年
公開格付け調査「HDI 格付けベンチマーク」の
問合せ窓口・Webサポートの2部門において
最高ランクの「三つ星」を獲得（4年連続獲得！）※

- ◆ 『三つ星』の獲得は、問合せ窓口部門では通算5回目、
Webサポート部門では通算9回目となります。

<問合せ窓口部門>



<Webサポート部門>



※ 「HDI 格付けベンチマーク」について

調査期間： 2021年7月～8月

調査方法： HDI 格付け審査員による評価

調査基準： 各評価項目ごとに4～1点評価

◎問合せ窓口評価項目
クオリティ： 1.サービス体制、2.コミュニケーション、3.対応スキル、4.プロセス/対応処理手順、5.困難な対応パフォーマンス： 1.平均応答速度、2.放棄率、3.対応時間、4.初回コンタクト解決率、5.顧客満足度

◎Webサポート評価項目 1.見つけやすく使いやすい、2.複数のセルフヘルプ選択肢、3.役立度/解決度、4.センターとの連携度、5.安心して利用できる



補償内容が高く評価され「SBI損保のがん保険（自由診療タイプ）」が2018年の調査に続き、保険商品で唯一の「AskDoctors 医師の確認済み商品」に認定

- ◆ がんの診療に直接携わる医師100名の93%が「他の人に勧めたい」と回答
- ◆ 医療現場で「実額補償」へのニーズが高い傾向



がんの診療に直接携わる100人の医師に聞きました

93%の医師が

SBI損保のがん保険を人に勧めたいと評価しました

2021年8月 AskDoctors調べ

※ 「AskDoctors評価サービス」とは、日本の医師の9割以上（30万人以上）が登録する日本最大級の医療従事者向け専門サイト「m3.com」の会員医師が商品に対して、資料や実験データ、商品の使用等で客観的に評価を行い、一定基準を満たした商品には認証を与え、ロゴマークを付与するサービスです。



全国の金融法人、事業法人との提携交渉を推進。
2022年3月末時点で、**合計93社**がSBI損保の
商品の採用を決定または販売開始済

◆ 事業法人の個人会員さま向けには、がん保険 無償プラン・追加補償プラン、集団扱いなどをご提供

<金融法人>

福島銀行	飯能信用金庫
筑邦銀行	長野信用金庫
東和銀行	松本信用金庫
きらやか銀行	東濃信用金庫
仙台銀行	浜松いわた信用金庫
筑波銀行	岡崎信用金庫
佐賀銀行	その他のご提携先さま
大光銀行	
イオン銀行	

<事業法人>

コメリキャピタル
UCS
東急カード
ポケットカード
カルチュア・コンビニエンス・クラブ
高島屋ファイナンシャル・パートナーズ
ベルーナ
ディノス・セシール
その他のご提携先さま

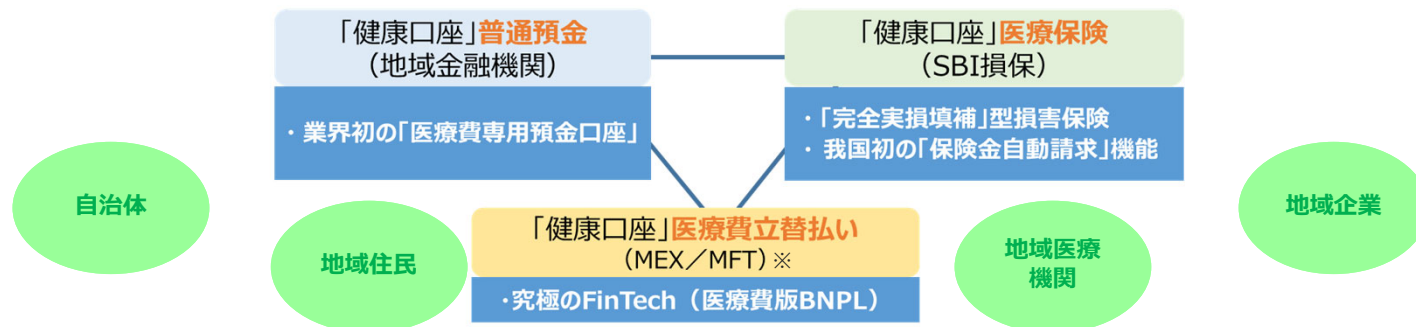




2021年11月から大垣共立銀行、日本 メディカルビジネス社と連携して開発した 国内初の「健康口座」サービスがスタート

- ◆ 将来の医療費を積み立てる専用口座、医療費の立替払いサービス、専用医療保険等を提供する、将来の医療リスクに備えるためのサービス
- ◆ SBI損保は「健康口座」会員専用の**実額補償タイプ**の医療保険を提供

健康口座



※ MEX…株式会社エムイーエックステクノロジーズ MFT…株式会社メディカルファイナステクノロジーズ



メディカル・データ・ビジョン（MDV）と 業務提携に関する基本合意書を締結

- ◆ 国内最大規模の量と質を誇る診療データベースを保有する
メディカル・データ・ビジョン株式会社（MDV）と診療データを
活用した保険商品の開発を検討
- ◆ 商品開発に向けた共同研究組織を立ち上げ、新たな保険商品の
リリースを目指す





DXによる新しい顧客体験の創出を推進。
AI搭載型OCRを用いた自動車保険のリアルタイム見積り
サービス「カシャッピ」を大幅にリニューアルし、AIが
自動で読み取る対象保険会社を従来の4社から15社に拡
大するなど利便性を向上



保険証券をスマホで撮って
カンタンな質問に答えるだけ！

バージョンアップ！ 国内大手損保+ダイレクト型損保にも対応！

特許出願中



カシャツとスピード見積り

SBI損保の自動車保険

最短**15**秒
でお見積り！



※実際の所要時間は
通信環境等により
異なります。

- ◆ 対象保険会社を従来の国内大手4社からダイレクト型損保を含めた15社に大幅に拡大
- ◆ 紙の保険証券だけでなく、PDFや保険証券を撮影した画像のアップロードでも概算保険料の見積りを可能とする改良を実施
- ◆ 読み取りのための撮影方法を解説するガイド機能を加えたことで、スムーズな読み取りをサポート

がん保険の保険金支払査定業務において 「AI保険金査定システム」を導入

- ◆ がん保険の保険金を請求する際※、スマートフォンなどで撮影された必要書類の文字情報を「AI保険金査定システム」が読み取り、支払基準に該当するかを自動判定
- ◆ 事故受付から保険金支払いを一貫してデジタル化することで、利便性の向上と迅速な保険金支払を目指す。

＜保険金お支払いまでの流れ＞



生命保険事業

- ◆ 団信を成長ドライバーに保有契約高を拡大
- ◆ 時代の変化に応じて、さまざまな保険商品・サービスをタイムリーにご提供



※生命保険事業は、SBI生命保険株式会社
(以下「SBI生命」) 1社で構成しています。

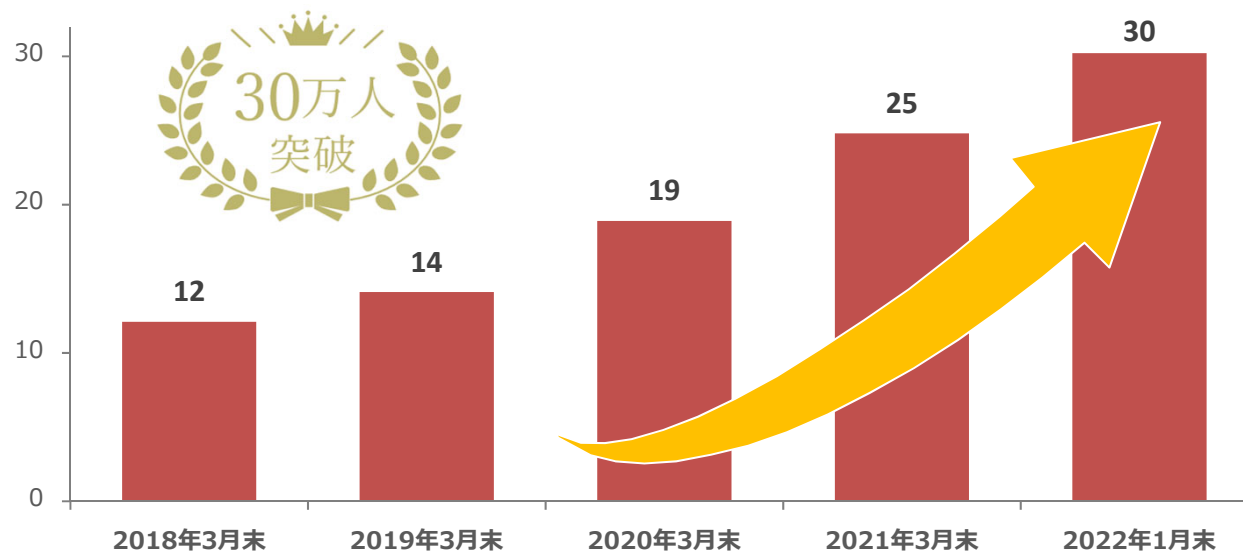


保有契約の加入者数が 30 万人を突破
リーズナブルな保険料とインターネットによる
手軽なお手続きが多くのお客さまに好評

- ◆ 2022年1月に保有契約の加入者数が30万人[※]を突破
- ◆ 2015年2月にインターネット金融のパイオニアであるSBIグループの一員となり、2016年2月の新商品の取扱い開始以降、順調に加入者数が増加

保有契約の加入者数の推移

(万人)



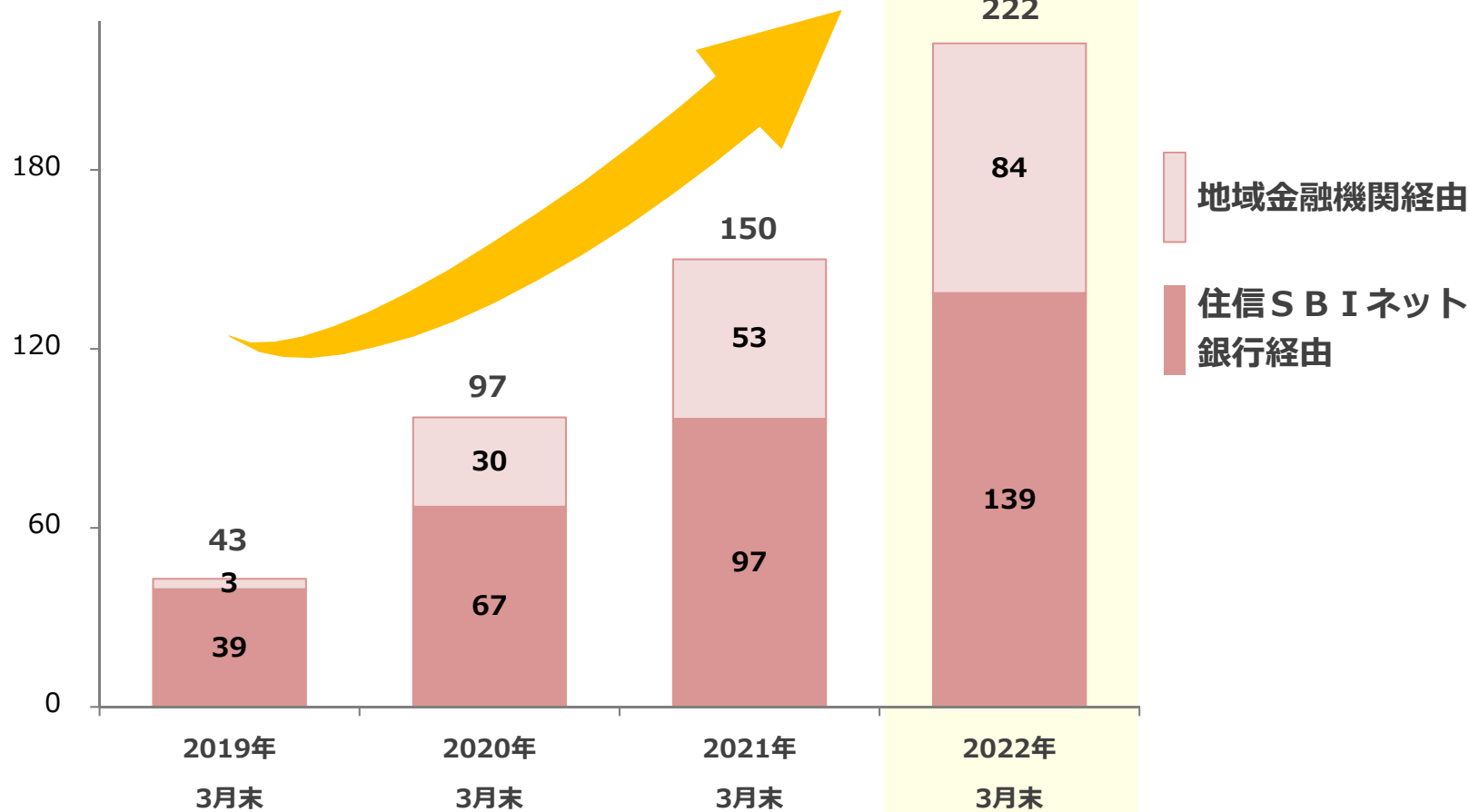
※個人保険の保有契約件数と団体信用生命保険の被保険者数を合算した数値



住信SBIネット銀行に加え、
地域金融機関での団信販売も好調に推移

団信累計申込件数

(千件)





全国の金融機関との提携交渉を推進。
2022年3月末時点で、**合計61機関**が
SBI 生命の団信販売を開始または決定済

◆ SBI 生命の団信は、地域金融機関等による
住宅ローン事業の収益性向上に貢献できる商品

<提携金融機関>

アルプス中央信用金庫
飯田信用金庫
池田泉州銀行
上田信用金庫
愛媛銀行
沖縄銀行
かながわ信用金庫
川崎信用金庫
北九州銀行
北日本銀行
協栄信用組合
島根銀行
住信SBIネット銀行

諏訪信用金庫
西武信用金庫
仙台銀行
東濃信用金庫
豊田信用金庫
長野信用金庫
浜松いわた信用金庫
飯能信用金庫
福島銀行
松本信用金庫
もみじ銀行
山口銀行
その他の提携先金融機関さま

※五十音順





**全国団信推進協会を契約者とする
団信制度のスキームを通じて団信を提供。
同協会には37機関が加盟済**

- ◆ 全国団信推進協会の加盟機関は、37機関まで増加。
- ◆ 加盟する地域金融機関等は、業態・地域の垣根を越えて加盟できるため、スケールメリットを享受できる。
- ◆ SBI 生命は、団信事務の一本化により業務を効率化できる。

<全団協の概要>

名称	一般社団法人全国団信推進協会
設立	2020年10月
所在地	島根県松江市朝日町484番地19
主な事業	Fintech等次世代金融サービスに関するセミナー・講演会等の開催等 団体信用生命保険の共同化等に関する事務および普及推進等

<団信制度のスキーム>





10月に住信SBIネット銀行の住宅ローン向け 団信をリニューアルし、保障内容を拡充。

- ◆ 通常の団信に加え、3大疾病保障（50%）および全疾病保障を基本付帯（住宅ローン借入時の年齢が40歳未満の場合）
- ◆ 上記保障を基本付帯するのは**ネット銀行初**[※]

※「ネット銀行」とは、ソニー銀行、auじぶん銀行、PayPay銀行、大和ネクスト銀行、楽天銀行、GMO あおぞらネット銀行、みんなの銀行のことをいいます。2021年9月21日時点の各行HP情報より。

40歳未満の場合（住宅ローン実行時の年齢）				
プラン名		3大疾病 50	3大疾病 100	ワイド団信 （※1）
上乗せ金利		なし	+年0.2%	+年0.3%
保障内容				
団体信用生命保険 リビングニース特約	死亡、高度障害、リビング ニース特約	○	○	○ （※2）
3大疾病保障特約【NEW】	ガンと診断されたら	○ 住宅ローン残高の50%を保障	○ 住宅ローン残高がゼロ円に	-
	脳卒中/急性心筋梗塞で所定 の状態（※3）となったら	○ 住宅ローン残高の50%を保障	○ 住宅ローン残高がゼロ円に	-
全疾病保障	ケガや病気で働けなくなっ たら	○ 月々の返済負担を保障	○ 月々の返済負担を保障	-
	ケガや病気で働けない状態 が一定期間継続したら	○ 住宅ローン残高がゼロ円に	○ 住宅ローン残高がゼロ円に	-
重度ガン保険金前払特約	重度のガンと判断されたら	○ 住宅ローン残高がゼロ円に	◇（※4） 住宅ローン残高がゼロ円に	○ 住宅ローン残高がゼロ円に
先進医療特約	先進医療による療養を受け たら	○ 先進医療の技術料にかかる 自己負担分を保障	○ 先進医療の技術料にかかる 自己負担分を保障	-

※1 「ワイド団信」は、健康上の理由で通常の団信にご加入いただけない場合、保険会社よりご加入のご案内をさせていただく商品です。 ※2 「ワイド団信」加入の場合、先進医療特約、3大疾病保障特約、全疾病保障は付帯されません。

※3 「所定の状態」とは、「労働の制限を必要とする状態（軽い家事等の軽労働や事務等の座業はできるが、それ以上の活動で制限を必要とする状態）が60日以上継続した場合もしくは所定の手術（※5）を受けた場合（急性心筋梗塞）」、または「言語障害、運動失調、麻痺等他覚的な神経学的後遺症が60日以上継続した場合もしくは所定の手術（※5）を受けた場合（脳卒中）」をいいます。

※4 3大疾病100プランでは、重度ガン保険金前払特約は付帯されませんが、3大疾病保障特約により住宅ローン残高が保障されます。

※5 急性心筋梗塞または脳卒中の治療を直接の目的として、所定の病院または診療所において所定の開頭術、開胸術、ファイバースコープ手術、血管・バスケットカテーテル手術を受けたときをいいます。



個人保険はお客さまや専門家から
非常に高い評価を獲得

インターネット申込専用定期保険
「クリック定期！Neo」



「昨年最も選ばれた保険ランキング」
死亡保険部門（ネット申込）

2年連続
No.1

2020年1月1日～2021年12月31日



「昨年最も選ばれた保険ランキング」
死亡保険部門（資料請求）

6年連続
No.1

2016年1月1日～2021年12月31日

※リニューアル前の「クリック定期！」の実績と合算した実績です



「昨年最も選ばれた保険ランキング」
定期保険部門（ネット申込）

2年連続
No.1

2020年1月1日～2021年12月31日



「昨年最も選ばれた保険ランキング」
定期保険部門（資料請求）

6年連続
No.1

2016年1月1日～2021年12月31日

※リニューアル前の「クリック定期！」の実績と合算した実績です



個人保険はお客さまや専門家から 非常に高い評価を獲得

就業不能保険 「働く人のたより」



保険市場 2022 年版
「昨年最も選ばれた保険ランキング」
就業不能保険部門（ネット申込）

2年連続
No.1

2020年1月1日～2021年12月31日



2022年 オリコン顧客満足度®調査
就業不能・所得補償型保険商品
2年連続 総合1位

※オリコン顧客満足度（R）調査 就業不能・所得補償型保険商品ランキングは、ファイナンシャルプランナー30名を対象に、株式会社oricon MEが実施した調査です。



保険市場 2022 年版
「昨年最も選ばれた保険ランキング」
就業不能保険部門（資料請求）

2年連続
No.1

2020年1月1日～2021年12月31日



「NEW よい保険・悪い保険 2022年版」
専門家が選んだ就業不能保険ランキング1位



『NEW よい保険・悪い保険 2022年版』
© 徳間書店（2021年12月発行）



優れたコミュニケーションデザインや
企業の情報品質への取り組み姿勢が高評価され、
「UCDA アワード 2021」にて 2 賞を受賞。

UCDAアワード 2021
生活・保障カテゴリ・借入申込書部門「特別賞」、
「実行委員会表彰 ブロンズ」



左から、SBI 生命：代表取締役社長 小野尚、UCDA：在間稔允理事長

※UCDA アワード

企業（団体）・行政が生活者に発信するさまざまな情報媒体を、産業・学術・生活者の「集合知」により開発した基準を使用して「第三者」が客観的に評価し、優れたコミュニケーションデザインや企業の情報品質への取り組み姿勢を表彰するもの



AIを活用したDX推進の一環として、システム開発においてAI搭載型のテストツールの実装を開始

- ◆ 2022年4月より、システム開発の効率化に向けて、アミフィアブルが開発した国内初のAI搭載型基幹システム向けテスト工数削減アプリ「MLET.II」の本格的な実装を開始
- ◆ MLET.II は、従来、手作業で行っていたテストシナリオ、テストスクリプト、テストデータの作成から、テスト実行ツールへの連携までを一貫して自動化
- ◆ 今後、本実証実験により得られた知見を基に他の保険商品のシステム開発にも同ツールを導入する計画

SBI 生命のAIの活用事例

重要な領域を特定し、集中してAIを活用

顧客の新たな経験

AIアシスタントによる顧客サービスの提供

社員の新たな経験

AIを活用した情報セキュリティ態勢整備

業務効率化

AI搭載のシステム開発テストツール

少額短期保険事業

- ◆ 戦略的提携とM&Aで成長を加速
- ◆ フルライン少短グループとして圧倒的No. 1へ

SBI いきいき少短

SBI 日本少短

SBI リスタ少短

SBI プリズム少短

SBI 常口セーフティ少短
GROUP

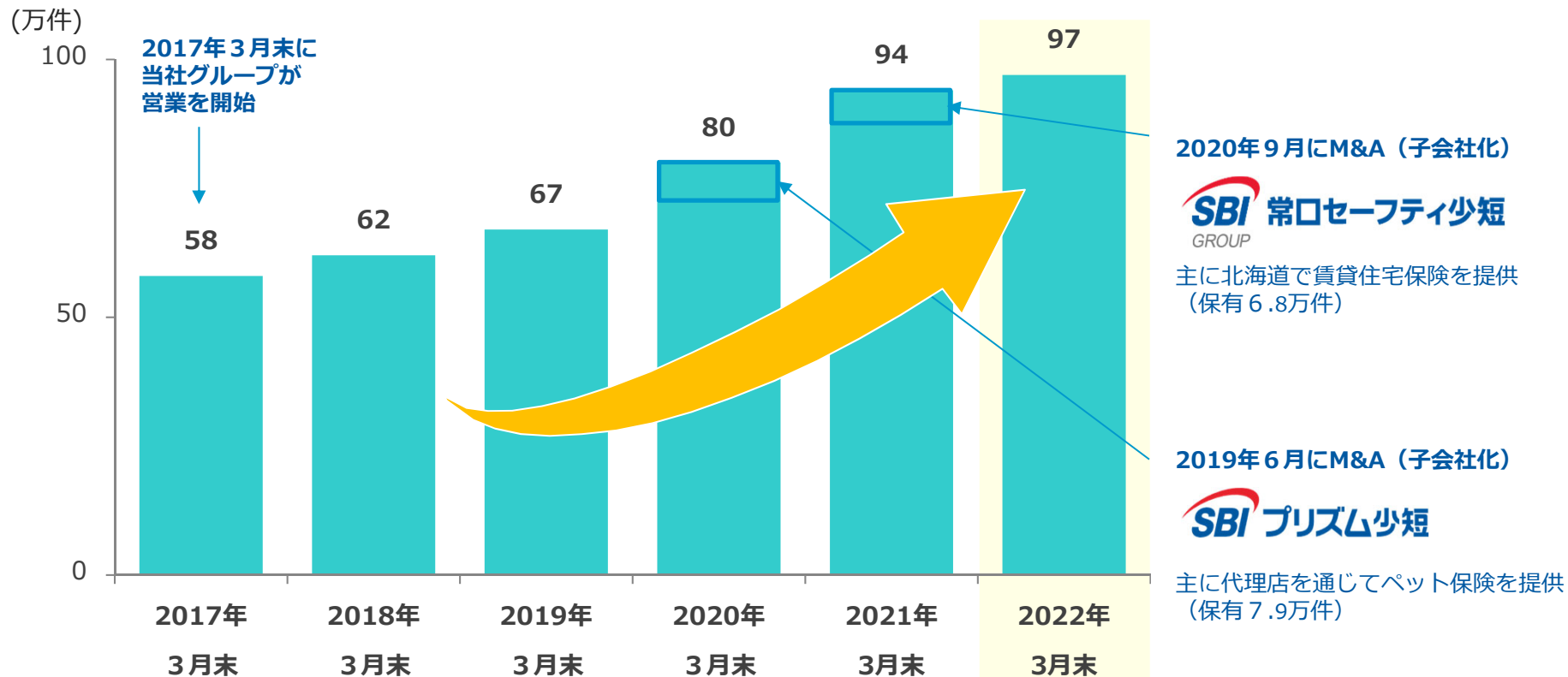
SBI SSI Holdings

※少額短期保険事業は、上記 少額短期保険会社 5 社と
SBI少短保険ホールディングス(株)で構成しています。



フルラインの少短商品を提供。
 お客さまとの接点の増加により、
 引き続き順調に事業規模を拡大

保有契約件数の推移 (少額短期保険事業)





ペット保険を取り扱う少短2社が 過去最速のペースで成長

- ◆ **SBIいきいき少短の保有契約件数は、2021年12月に16万件を突破。**
(2022年3月末日現在 16.5万件)
「手ごろな保険料で、必要な保障を」というお客さまの声にお応え。
愛犬・愛猫を守るペット保険のインターネット申込が特に好調
- ◆ **SBIプリズム少短の保有契約件数は、2022年3月に11万件を突破。**
2002年の創業当初から全国の代理店のご協力の下でペット保険の普及に努め、
2019年6月の当社グループ加入後に成長が加速



SBI いきいき少短



SBI プリズム少短



**お客さま本位の商品・サービスを追求。
外部パートナー企業やグループ企業との
業務提携で更なる飛躍へ**

<事例>



- ・ S B I リスタ少短は、ブライダル事業を行う株式会社エスクリと業務提携し、「結婚式総合補償保険」を提供開始。そのほか、外部パートナー企業である非金融事業者のサービスに組み込み可能な保険商品を提供開始。



- ・ S B I いきいき少短と S B I 日本少短は、わが国初の金融サービス仲介業者として登録を受けた S B I ネオモバイル証券を介した保険商品の販売を展開



- ・ S B I 日本少短との共同保険契約による引き受けや事故対応・代理店管理などの事務共通化を推進するなど、グループシナジーを追求。



- ・ ペット飼育者向けアプリを提供するペットシェルジュ株式会社と業務提携。今後、同社のアプリにペット保険契約者向けの機能を搭載するなど更なる連携強化を図る。



お客さま本位の商品・サービスを追求。
少額短期保険事業もDXを推進

<事例>



- SBI 日本少短は、自社の保険契約管理システムと代理店が利用するオンライン入居申込サービスをAPI接続し、代理店業務の効率化とお客さまの利便性向上を実現。



- SBI プリズム少短は、保険金請求手続きをウェブ・ブラウザやスマホアプリで完結できる仕組みを構築し、お客さまの利便性を向上。



保険契約管理システムと不動産プラットフォーム各社とのAPI連携をサポートする中間サーバーを開発

ペット保険ラクラク請求アプリの実装

MOBI VOICE
AI 電話自動応答システムの実装



**グループシナジーを徹底追求。
単独の会社では実現しえない
高い業務効率を目指す**

- ◆ **強いシナジーを期待できる
会社さまとの良いご縁があれば、
M&Aも積極的に検討**
- ◆ **ノウハウ・設備の共有化を推進。
グループ入りした少短各社の
管理業務を効率化**

Creating Group Synergy

A digital illustration of a suspension bridge at sunset. The sky is a mix of blue and orange. Several cars are on the bridge, with futuristic, glowing blue UI elements overlaid on them, suggesting a smart or autonomous driving theme. The bridge's cables and towers are visible in the background.

<https://www.sbiig.co.jp>

SBI Insurance Group Co., Ltd.

参 考 资 料

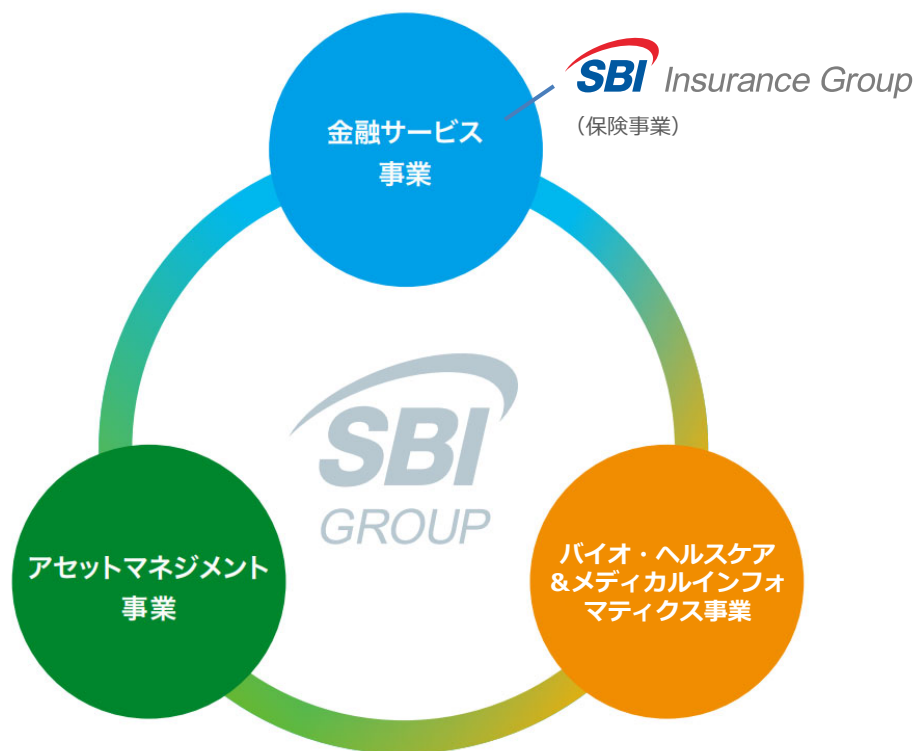




SBIグループ（当社親会社の企業グループ）は、地域金融機関・異業種企業とのアライアンスを拡大。当社グループ各社も、全国の**SBIグループ提携先**を通じた**保険販売**に取り組む

< SBIグループの事業領域 >

< SBIグループの事業構築の考え方 >



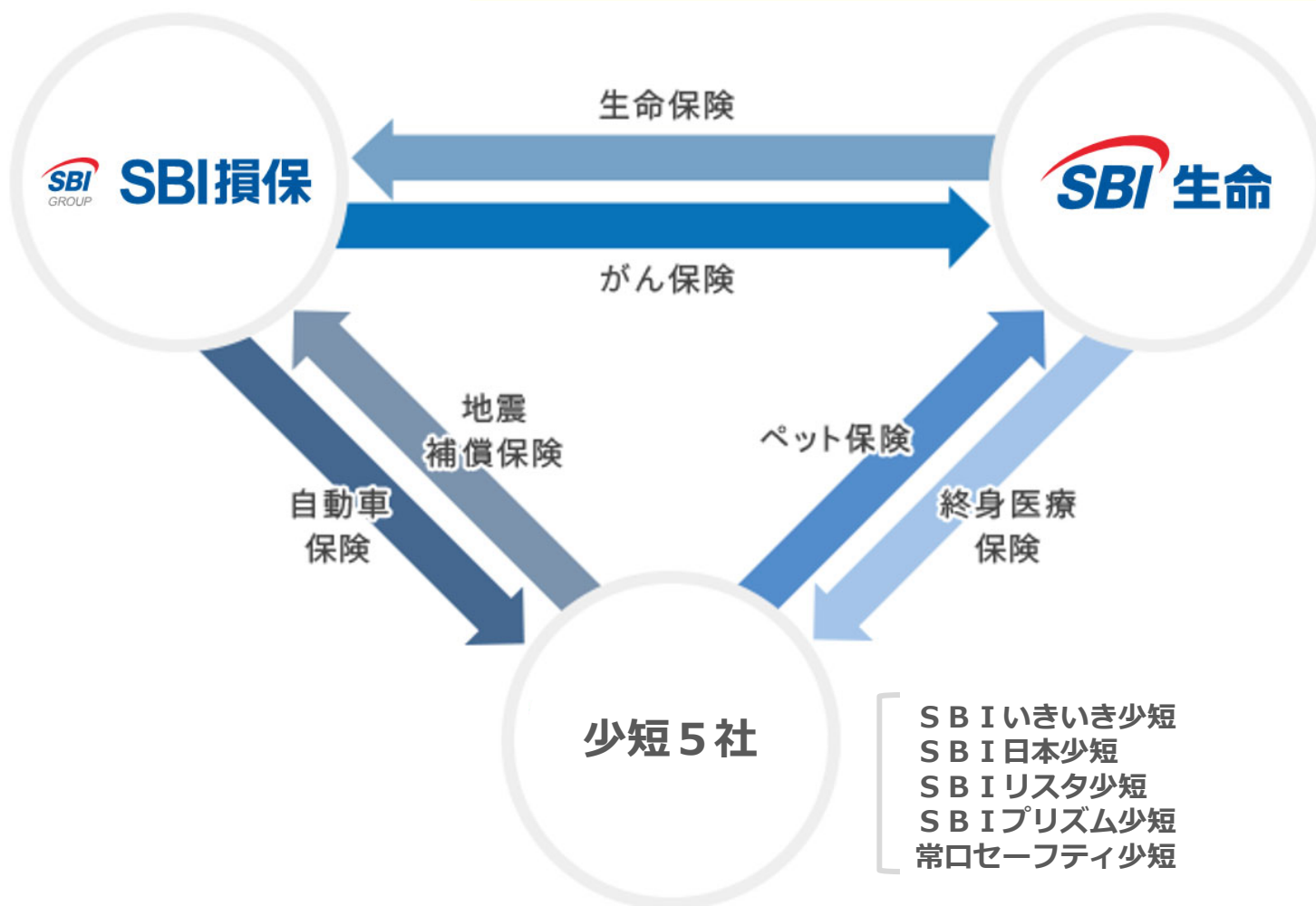
- ◆ 『顧客中心主義』の徹底
- ◆ 『企業生態系』の形成とシナジーの徹底追求
- ◆ 革新的技術に対する徹底的な新報
- ◆ 近未来を予見した戦略の策定と遂行

グループ体制図





当社グループ内でも各社の顧客基盤を有効活用して効率的な保険販売を実践



損害保険会社における普通責任準備金の積み立て方法

損害保険会社の普通責任準備金は、将来（未経過期間）に対応する責任に備えて会社内部に積み立てる準備金です。地震・自賠責を除くすべての種目の損害保険契約において、初年度収支残または、未経過保険料および保険料積立金の合計額のいずれかの大きい方を普通責任準備金として積み立てることとされています。

初年度収支残を概説すると、当該事業年度に収入した保険料から、当該事業年度に保険料を収入した保険契約に係る保険金、返戻金、支払備金、当該事業年度の事業費を控除した残額を、翌期以降の保険事故に備えて繰り越すものということができます。初年度収支残を積み立てる場合、対象となる保険契約に係る損益は初年度においては認識されず、翌年度以降に認識されることとなります。損害保険会社の普通責任準備金に係る正確な規定については、保険業法施行規則 第70条 1項 1号をご参照ください。

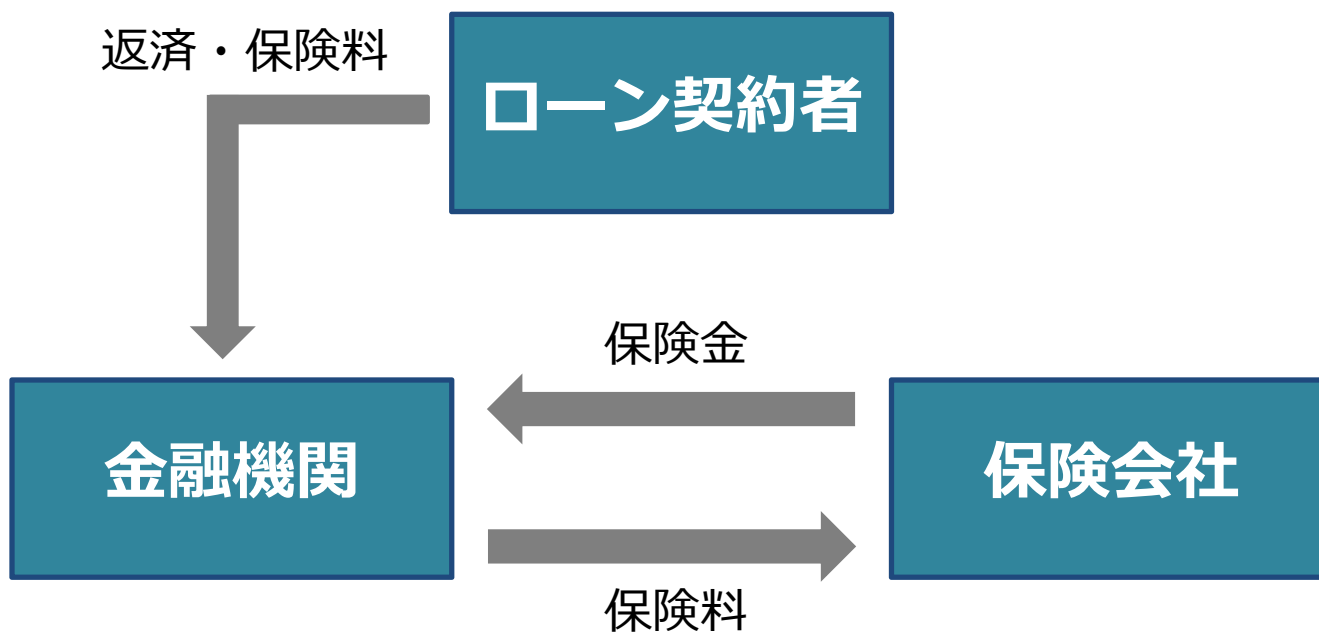
S B I 損保の自動車保険における普通責任準備金の積み立て方法

S B I 損保の自動車保険では、従来、未経過保険料および保険料積立金の合計額[※]を普通責任準備金として積み立てていましたが、2020年3月期第4四半期以降、保険引受収支が改善した影響により、初年度収支残の金額が、未経過保険料および保険料積立金の合計額を上回ったため、初年度収支残を普通責任準備金として積み立てています。

※ S B I 損保の自動車保険は保険料積立金の積み立てが必要ありませんので、未経過保険料の金額が、未経過保険料および保険料積立金の合計額と同額となります。

団体信用生命保険・団体信用就業不能保障保険(団信)とは

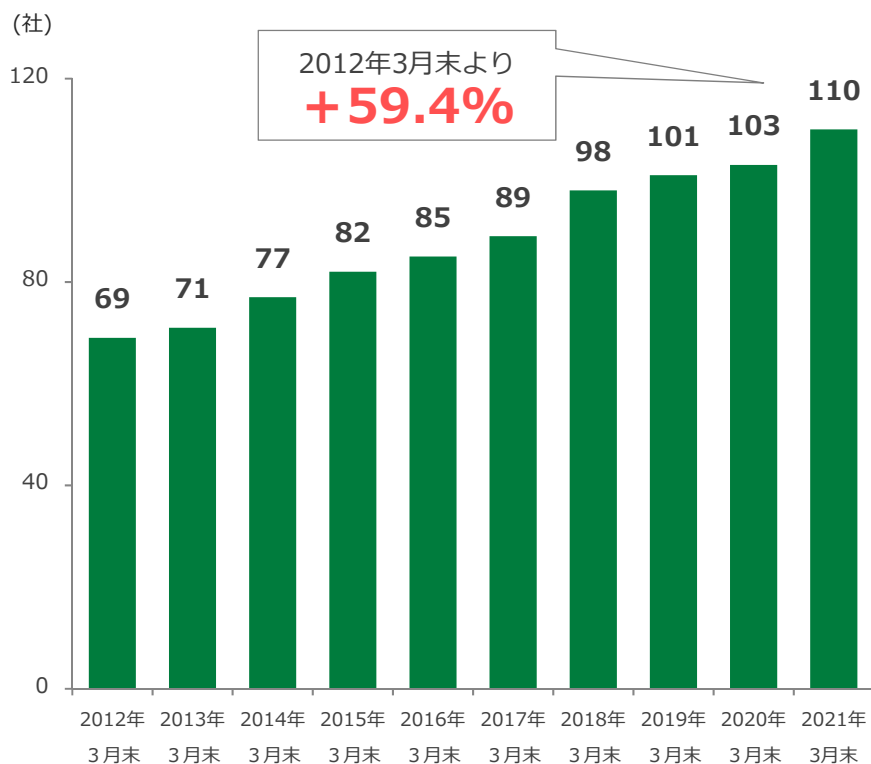
団信は、住宅ローン・事業性ローン用の生命保険で、住宅ローンの返済中に契約者が亡くなった時や高度障害になった時に、生命保険会社がローンを返済する制度です。一般的に、住宅ローンを金融機関に申し込むとき、団信の加入が義務付けられています。



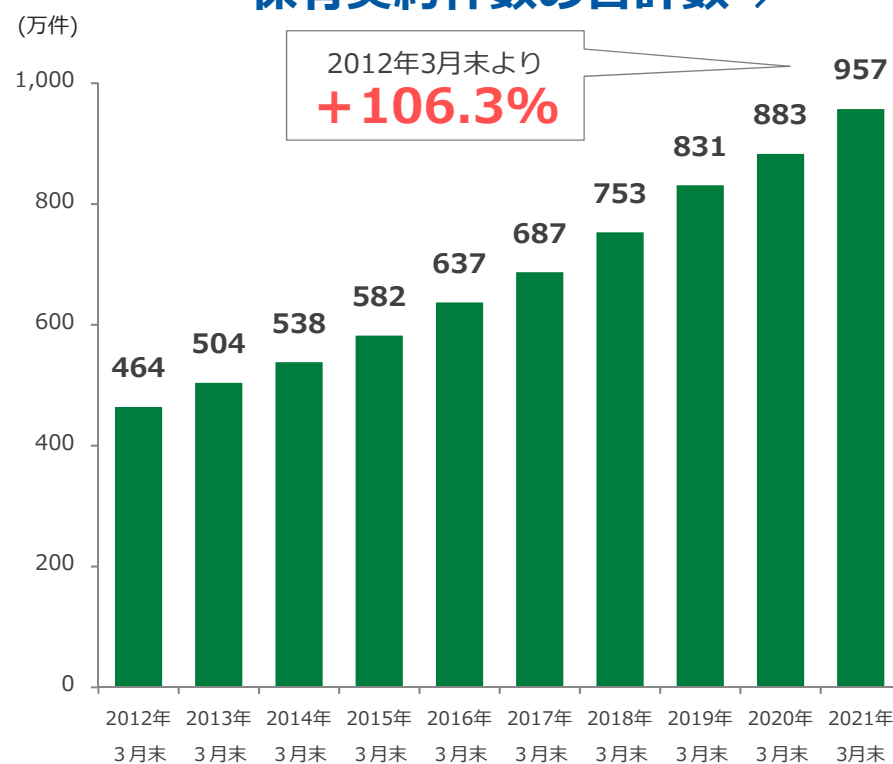


少額短期保険業界は新規参入が多く、
事業者数は純増。業界全体の保有契約
件数合計もハイペースで増加

< 全国の少額短期保険会社数 >



< 全少額短期保険会社の保有契約件数の合計数 >



※ (一社) 少額短期保険協会が公表している各事業年度決算概況に基づき当社作成

※ (一社) 少額短期保険協会が公表している各事業年度決算概況に基づき当社作成



商品分野別では、家財・賠償責任の分野のボリュームが大きく、各分野にユニークで魅力的な商品が存在

< 事業者数、保有契約件数の商品分野別内訳（2021年3月末） >※

分野	商品例	事業者数 (社)	保有契約件数 (万件)
家財・賠償責任	賃貸住宅入居者用家財保険、 ダイレクト型家財保険、孤独死保険	51	792
生命・医療	死亡保険、医療保険、引受基準緩和型保険、 認知症保険、葬儀費用保険	30	45
ペット	ペットの入通院・手術補償などの保険	9	61
その他	地震費用保険、レスキュー費用保険、 痴漢冤罪弁護士費用保険、携帯修理費用保険	20	57
合計		110	957

※ 当社調べ。複数の分野で商品を取り扱っている少額短期保険会社については、主力商品の分野で事業者数をカウントしております。



<https://www.sbiig.co.jp>